

# 平成29年度 くまもと・わくわく基金

## 冠基金 東京エレクトロン九州・マッチングギフト

### 事業報告

---

団体名：(NPO法人身近な犯罪被害者を支援する会)

助成事業名：(犯罪被害者等への理解と被害に遭われた方々への相談窓口の周知対策)

## (1)実施内容

- 公開シンポジウム12月2日県民パレアホールで実施

### 第1部：犯罪被害者遺族の想いを聴く

被害者から支援のあり方を学ぶ

- 一家で死ぬことを考えていた、なんで私の家族が
- 他人に相談することもできない
- 周囲からの中傷・噂話に自責の念に苦しんだ
- 声を上げる場所がない何をどうしたらいいのか
- 被害者への警察署・検察庁・裁判所・弁護士などへの付添い・被害者、家族への見守りを支援してきた
- 医療機関への治療・カウンセリングを行なった



市民公開シンポジウム 「犯罪被害者から学ぶ」 ～より良い犯罪被害者等支援制度のために～  
**身近な犯罪被害者への支援の輪を広げよう**

主催 NPO法人身近な犯罪被害者支援する会 後援 熊本県、熊本市、熊本県警、RKK、TKU、KKT、KAB、朝日、熊本朝日放送（NHK）、くまもと被害者支援センター、一般社団法人命の連鎖を断る会



第1部 第2部  
基調講演 19時30分～20時15分  
「犯罪被害者遺族の想い」  
清水誠一郎（被害者遺族）  
「被害者への支援内容と対応等について」  
田中 幸子（熊本県警）  
清水誠一郎（被害者遺族）  
大島 洋（熊本朝日放送）  
上田 実（熊本朝日放送）





## • 第2部パネルディスカッション

- 支援関係機関関係者による支援制度及び支援の内容について

### 「より良い支援を目指して」

被害者遺族・検事・警察・弁護士司法書士等担当者による

- なぜ被害者等の支援が必要か、
- より良い支援の有り方について
- 被害者等の人権を守り、回復するために必要な支援について、
- 回復には個人差があり短期でいい場合、長期にわたる場合があります。
- 民間の支援活動機関と連携して切れ目のない支援が必要です。

## (2)助成金の活用

- チラシ作成2,500枚市民公開講座開催案内
- プリベイト作成(カード)500枚携帯用相談窓口案内
- リフレット作成500枚支援活動の内容と必要性説明
- 会場横断幕、会場費、など
- 広報活動を積極的に展開できた
- 各関係団体訪問、一般市民に対する啓蒙活動配布
- 参加者及び一般市民への相談窓口の案内活動ができました。

### (3)成果、市民の声(参加者やサポートを受けた方)

- 参加者92名うち80%は被害者支援の必要性を知らなかった。
- 被害当事者の想いは他人には想像もできないと思った。
- お話を聴いて理解を深めることができた
- 支援の大切さ、相談窓口の必要性について理解できた。
- 8名の方が相談活動をしたいと思う。  
犯罪が起きない、社会に何かできないか
- 性犯罪未遂の被害者の掘り起こしを
- PTSD,(心的外傷後ストレス障害)を患う
- ト라우マを抱える被害者がいる。
- 賠償は加害者に一生かけて支払わせるようにする。

# 続き

- 被害者のケアは一生続くものだと分かった。
- 被害者の支援はまだ理解されている方は少ないと思う。
- もっと多くの人にこのような活動があることを知らせることが必要と思います
- 被害者遺族に共感できる、つらいことの公開だが犯罪予防につながると思う。
- 被害者の支援が必要だと、つくづく感じました。
- 被害者一人で解決することの困難さも理解することができた
- たくさんの人がご意見、感想、要望等を書いてくださいました
- 広報活動をしっかりしてください、皆さんに知らせてください。

## (4)今後の事業展開

- 犯罪被害者等への支援はまだ道半ばです。
- 被害者及び遺族の話とセットで市民の関心を高めるために公開講座を実施いたします。
- 一人でも多くの方が相談されるように広報活動いたします。  
一人でも悩まないですぐ相談を
- 今年も、北区・西区・南区で公開講座の開催を計画しています。  
「近くの方のご参加をお願いいたします」
- 熊本県に犯罪被害者支援条例が制定されるよう活動をいたします  
(犯罪被害者等の権利保護、損害賠償請求訴訟の援助、6割が賠償を受けていない。二次被害の防止に向けた配慮等)

ご清聴ありがとうございました。